

コバス アンプリコアによる TB-PCRのカットオフ値以下の OD値を示した症例の報告

吉多 仁子, 所 知都子, 浅田 薫, 浅井 浩次, 北橋 由紀子, 谷川 信子
(大阪府立呼吸器・アレルギー医療センター)

目的：結核菌の検査では、塗抹＜PCR＜培養の順に陽性率は高くなるとされている。カットオフ値は、OD0.35である。陰性のOD値は、その大部分が0.010以下のOD値であった。今回われわれは、カットオフ値から0.100の間のOD値を示す症例について検討を行った。また、塗抹陽性でPCR陰性であった症例について報告する。

対象：期間は、2003年7月～2004年6月の年間。検体数1704件のうちTB-PCR陽性は、212例（12.4%）であった。陰性は、1492件のうち上記ODの症例について検討を行った。

結果・考察：症例の結果を表1)に示した。カットオフ値以下の症例中、1と2の症例は塗抹、PCR陰性で、小川培養は6週と8週で陽性で微量排菌であった。しかし、MGITでは2週以内に陽性となった。他の4症例については、塗抹陰性、PCR陰性、培養陰性であった。カットオフ値以下で0.100以上のODを示した検体の検討をした結果、2/3の検体では培養も陰性であったが、1/3の検体では培養で陽性であった。

症例7は塗抹陽性で、PCR陰性であった。本症例は18才で、結核が強く疑われ迅速な診断が必要であったため、MGITを10days培養後、その培養液でPCRを行った。その結果PCR陽性(OD=3.401)となった。培養結果から微量排菌検体と考えられ、塗抹陽性はわずかな菌がとらえられたものだと考えられた。検体からのPCRが陰性であっても、MGIT培養液でPCRを測定することで臨床診断に貢献できた。連絡先 0729-57-2121(内線2577)

表1) 症例の結果